

1 月行く 2 月逃げる 3 月去る

1月10日（金）

この前、お正月を迎えたと思っていたのに、1月もどんどん日が過ぎて・・・

〔1月〕 待って欲しいのに**行**ってしまう。

〔2月〕 1か月の日にちが少なくて、ひと月があっという間に**逃**げていく。

〔3月〕 いろんなことをして、気がついたら日が**去**ってしまう。



昔からそれぞれの数字の読みを取って、「1月＝行く」、「2月＝逃げる」、「3月＝去る」と言われてきました。「明日から…」と先送りしていると、結局何もできないまま1年が終わってしまうことになります。3学期を次の学年への「0学期」と捉え、「変わる」（チェンジ）という意気込みを見せてほしいです。さて、来週の14日（火）と15日（水）は3年生最後の進路懇談です。12月の懇談で迷っていた生徒などが志望校決定の最後の場となります。前にも述べた「志定まれば気さかなり」です。志望校が確定すれば、ひたすら努力あるのみです。昔からこんな会話をよく耳にしてきました。

親 A：「お宅のお子さん、どこの大学（高校）に行かれていますのですか？」

親 B：「〇〇大学（高校）です。」

親 A：「まあ、良い大学（高校）に受かられたんですねえ…。」



ところで、「良い大学(高校)」とはどんな学校ですか。偏差値の高い学校を良い大学（高校）と言うのでしょうか…。そんな偏差値の高い大学や高校に入ったものの、途中で目標を失い退学した学生にとって、入学した学校は良い大学(高校)なののでしょうか？ある人は「面倒見の良い大学（高校）を選びなさい。」とされています。最近の企業の採用試験の願書には、出身大学名を記入する欄がない企業も増えているようです。近年、企業の採用担当者の多くは、「うちの会社は大学のネームバリューで採用するのではありません。入社試験の結果であり、人物です。」と答えられます。「〇〇大学を出たから大丈夫」といった話は過去の話です。世間体や親の意見に振り回されず、本当に学びたいことややりたいことができる学校を自らの手で選択できる生徒になってほしいと思います。

「最高の準備をして最高の結果を！」 がんばれ受験生！ がんばれ青中生！